

2012年7月12日

イトーヨーカドーが「2012年GAP普及大賞」を受賞！

～受賞対象：生鮮PB「顔が見える野菜。」、環境農業「セブンファーム」～

株式会社イトーヨーカ堂（代表取締役社長：亀井 淳、以下「当社」）は、当社で展開している生鮮食品のプライベートブランド「顔が見える野菜。果物。」と子会社で農業事業を展開する「セブンファーム」の各々の取組みに対し、このたび、日本GAP協会（JGAP、理事長：木内博一）より「GAP普及大賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「GAP普及大賞」は本年1年間で最もGAPの普及に貢献した取組みに対して表彰されます。今般の受賞は、生産者と小売りの共通理解のもと、高い安全性を確保するために積極的にGAPを活用している当社の事例に対してご評価いただいたものです。本受賞に際し、2012年7月18日（水）に東京大学 弥生講堂で開催されるシンポジウム「GAP Japan 2012」内におきまして、表彰式と受賞者による記念講演が予定されております。

*シンポジウムの詳細は、JGAPホームページ（<http://jgap.jp/>）を御参照ください。

当社は、今般の受賞を機に、生産者、産地との更なる共生を深耕するべく、今後も生販一体となって安全・安心な農産物の生産～流通により一層努めてまいります。

GAP（Good Agricultural Practice = 農業生産工程管理）とは

農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法のひとつ。農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動。JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に対して与えられる、農場や農協等の生産者団体が活用する農場・団体管理の認証制度

「顔が見える野菜。果物。」について

2002年より展開している当社独自の生鮮食品トレサビリティブランド。商品パッケージに記載されたQRコードを携帯電話で読み取ることで、量販店で唯一、生産者個人まで特定された生産履歴情報をその場で確認可能。全国550産地、約5,000名の生産者とブランド契約し、現在、190品目の野菜や果物を販売

「セブンファーム」について

食品残さ（生ごみ）のリサイクルによる再資源化と地域農業の活性化を目的とした当社による環境循環型農業。店舗から排出された食品残さ（生ごみ）を堆肥化し、専用農場に導入、栽培した農産物を、残さを排出した店舗で販売。2008年に千葉県富里市で農業法人を立ち上げ、順次全国に拡大し、現在は北海道、埼玉、東京、千葉、神奈川、愛知の6ヶ所で展開

以上